

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム設楽の家
(ユニット名)	2号館
所在地 (県・市町村名)	愛知県北設楽郡設楽町
記入者名 (管理者)	伊藤由美子
記入日	平成 19 年 6 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	政本病院グループの基本理念は、自立・共生・友愛である。地域密着型サービスとしての理念は、特に掲げていないが、自立・共生・友愛につながると考えている。	○ 身体的な自立・共生・友愛の姿を示して行きたい。地域の中で、グループホームとしての自立。ゴミ出し、地域清掃、リサイクル活動、野菜作り等で共生。保育的・学校、老人会、祭り等の参加で友愛と、理念を実現する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。	○ 管理者と職員は、事業のあり方、運営について、具体的に個々に話し合い、企画を立て実践して行く。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域への理念の浸透を計る為、季節や行事開催(初詣・ひな祭り・七夕・夏祭り・クリスマス会)や、地域の行事参加(運動会・学芸会・老人会・祭り)に努めている。	○ 季節の行事開催や地域の行事参加と共に、広くボランティアを募り受け入れる。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	中学校跡地により、グラウンドが残されているので、地域のお年寄りの方がランドゴルフをしに来てくれる。野菜や笹の葉、門松等の提供を受けている。散歩時や病院受診時に地域の人が声をかけてくれる。	○ 地域の人にあったら挨拶をし、声かけ受け込む。野菜作りのアドバイスやボランティアの提供を受ける。事業所として、地域に還元できる物(野菜・わら草履・雑巾等)を作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会、学芸会、地域の老人会、お祭り参加等、外出企画として実施している。	○ 小学校での行事参加、地域での行事参加等積極的に実施すると共に、花見や夏祭り、外食等の事業所独自の行事も大いに盛り上げ、地域や家族からのボランティアも受け入れる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者への支援は精一杯頑張っている。地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか等の話し合いは手付かずである。事業所として、自立している姿がひとつの見本になっているかもしれない。	○	事業所として、地域の認知症ケアの一施設のモデルとして努めて行きたい。地域の方の相談窓口になりたい。見学会を開いたり、認知症の理解や接し方の勉強会を開いたり、実習生を受け入れたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を活かし、具体的な改善に取り組んでいる。	○	外部評価を踏まえ、改善計画を立てて取り組む。職員の意識合わせ、ケアの振り返り、見直し等綿密に行い事業所全体の改善を計る。全員が自己評価をし、自己反省し改善して行く。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、経過報告し合い、更なるサービス向上に努めている。	○	検討事項、懸案事項について、更に話し合い、サービス向上に努めると共に、その後もモニター役となり、見守り・評価を知り、改善・向上に努めて行く。運営推進会議のメンバーを替えたり、少数意見も聞く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に何度か役場を尋ね、市町村担当者と情報交換を行っている。また、地域の会合にも参加している。	○	市町村担当者に対し、実情やケアサービスの取り組みを伝えて行く。市民福祉を推進する最前線の市町村から、より良い運営方法について、示唆を受けたり学び合い連携を深めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	○	管理者、職員共に学習していき、必要に応じて利用者の権利擁護や成年後見人制度について、助言活用ができるよう努力して行く。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。	○	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行う。自己の行動を点検したり、事業所内で虐待がおこっていないか絶えず点検し、サービス向上に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解納得を図っている。</p>	<p>○</p> <p>時間をとって、利用者側の立場をとりながら、将来的な疑問を引き出し、十分な説明を行い、納得の上契約してもらう。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が認知症の為、意見・不満・苦情等を表現しにくいのが、家族や職員を通じて伝えられる事が多い。</p>	<p>○</p> <p>利用者や家族が意見や不満、苦情等を表現できるように、話し合いの場や耳を傾けるゆとりの時間を提供するようにする。利用者の言葉、表情、行動等から不満等を察し得る感性を持つ。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態や金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態、受診結果、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせて報告する。手紙やFAX、電話等で報告、連絡をする。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が意見や不満・苦情等を管理者や職員・外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>家族等が意見や不満・苦情等を管理者や職員・外部者に話せるような機会を設け、運営に反映させていく。家族等が意見を出しやすい環境をつくる。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会は少ない。ましてや、運営に反映されている点は少ない。</p>	<p>○</p> <p>ミーティング・研修会・勉強会・個別面談等で、職員は運営に関し、意見や提案をし、運営者・管理者はそれを聞き、反映させていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間に職員を確保する為、話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>○</p> <p>余裕をもった人員確保をし、利用者の状況変化や職員の急病、急用等に速やかに対応できるように勤務調整に努める。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が馴染みの管理者や職員とホーム生活ができるように、異動や離職は、必要最小限に抑えるよう努める。新しい職員が入る時は、利用者に必ず紹介する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成する為の計画を立て実施している。働きながら、順次、機会を設け、トレーニングすることを進めている。</p>	<p>○</p> <p>段階に応じた人材育成を計画的に行う。年齢やパート等で差をつけず、良質な標準的な人材育成を心がける。研修内容等すぐ現場で役立つような事は報告し合う。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>役場、地域包括支援センター等主催の研修会等に参加している。</p>	<p>○</p> <p>地域包括支援センターによる研修会・交流会・行事等、交代で積極的に参加して行く。同業者の施設の訪問・見学等をして交流・学習をしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間の親睦会や四葉会の行事参加による交流会等行っている。職員間でも職場内の悩みや困りごと等相談し合い解決している。</p>	<p>○</p> <p>事業所内外等の親睦会、行事参加等を楽しむ。心理相談員、カウンセラー等、専門家による相談ができる機会を作る。利用者から離れて、休憩時間を過ごせれる場所がほしい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得を支援する取り組みを行っている。運営者は、職員の個々の努力や実績、勤務状況等把握し、向上心をもって働けるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>資格取得の為の支援を行う。心身両面の健康維持を計るよう支援する。職能評価をし、向上心を盛り上げる。個別職員の希望や悩み等把握する。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で生活状態を把握するよう努めている。本人にとって困っていること、不安、希望等よく聞いている。</p>	<p>○</p> <p>必ず本人と面談し、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努める。本人にとっての不安、希望等よく聞いておく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話で相談してくる等管理者が対応し、親切に適切に受け止める努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>家族の求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応ができるか、事前に話し合う。これまでの家族の苦勞や、今までのサービスの状況などについてゆっくり聞き、相談にのって行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合は、可能な限り、柔軟な対応を行っている。	○	緊急な対応が必要な場合、空室があれば、ショートステイを利用して頂けるようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、十分に話し合いながら、本人と家族にあった、個別の利用開始の調整を行い、安心して利用して頂けるよう支援している。	○	日中、ディサービス利用のように、遊びにきて頂くことから、徐々に納得されてから、入居して頂けるようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、お互いが協働しながら、和やかな生活が出来るように配慮している。	○	利用者と職員がよりお互いのことを分かり合えるよう、談笑する時間の拡大をはかりたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、利用者の日々の様子や職員の思いを伝えることにより、本人を支えていくための協力関係を築けることが多くなっている。	○	家族が参加できる企画行事を計画して、施設に足を運んで頂けるようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、本人の状態を見極めながら、外出・外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりして、よりよい関係の継続に努めている。	○	ご自宅へ外泊されることで、ご本人が混乱を生じるような場合、ご家族が施設へ泊まる事が出来るようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している洋品店へ買い物に行かされている利用者や、馴染みの知人・友人等が会いに来てくれたり等、継続的な交流が出来るように支援している。	○	それぞれの利用者の行きつけの場所などに、定期的に出掛けられるように、取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について、情報提携し、個別に話を聞いたり、毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に会話したり、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。	○	いろいろな作業を利用者と職員が一緒にし、職員は利用者のそれぞれの個性をうまく活かしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方も、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心掛けている。	○	企画行事の時には、案内状を出し、ご家族様が来やすい関係を作りたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、声をかけ、言葉や表情から真意を察し、心の声に耳を傾けるように努めている。	○	何が楽しみですか？困っている事はありませんか？これからしてみたい事はありませんか？など、質問を記した「いきいき生活シート」のようなものを作り、ご本人に書いて頂いたり、聞き取りしたりして、ご本人の気持ちを表に出して頂きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身から出てくる昔の話や、家族・知人等の訪問時などに、少しずつ把握に努めている。	○	それぞれの職員が、聞き取った話など、一枚のシートにまとめ、全ての職員の情報共有に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者との関係を深めながら、本人の求めている事、秘めている力を引き出すという関わりによって、その人全体の把握に努めている。	○	現状維持ではなく、可能性をさぐりだし、伸ばす方向に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、本人や家族の要望を聞き、反映させるようにしている。利用者の真のニーズを踏まえて、介護目標を設定し、具体的な介護内容について、実施方法も含めて職員全員で検討している。	○	私の不安や苦情・悲しみは？私の介護への願いや願望は？私がうれしい事・楽しい事・快いと感じる事は？私がやりたい事・願いは？などの心身の情報をシートにして、ご本人や家族の口から出た言葉や、介護者が本人になっただけで気づいた事などを書き入れ、このシートからケアプランに生かしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、利用者の反応や効果などを評価すると共に、利用者の状態変化や状況、家族や本人の要望に応じて見直しを行っている。	○	モニタリングシートを、一ヶ月ごとに担当職員が記入することにより、ケアプランの修正の有無や終了などの見直しが、しやすく出来るようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録をつけ、いつもと様子が違う時などは、詳細記録に記録し、勤務開始前には確認をしている。	○	個別に、食事・水分量・排泄等の身体的状態を記録し、いつでも職員が確認できるようにしていきたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院などの支援の対応をしている。家族の状況や要望を軸に外泊などの対応をしている。	○	通院などの支援の対応を続けていきたいです。家族の状況や要望に対応し、外泊や外出など続けていきたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らしていけるように、運営推進会議を開き、民生委員等と意見交換する機会を設けている。	○	利用者が安心して暮らしていけるように、警察や消防署などと意見交換する機会を設けていきたいです。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運動会や学芸会・お祭りなどの行事への参加をしている。ボランティアの方が見え、踊りなどを見せて頂いている。	○	地域の運動会や学芸会・お祭りなどの行事に声をかけて頂いているので、続けて参加して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通し、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築きあげている。	○	今後も運営推進会議を通し、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を続けていきたいです。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。事業所の協力医の他、入居前からの主治医での医療が受けられるよう、ご家族様と協力し通院介助を行っている。	○	本人や家族が希望するかかりつけ医にする為に、家族と協力し通院介助を続けていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的にかかりつけの医師に受診し、利用者の状態について細かく話し合っている。	○	今後も、専門医に相談し、的確な診断や治療を受けられる様支援して行きたいです。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日、決まった時間にバイタルチェックを記録し、体調の変化にいち早く気づく様になっている。	○	地域で行われている講習等に積極的に参加し、利用者の体調の変化に対して柔軟に対応できるようにする。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぎ、医師と話すの機会を持ち、施設で対応可能な段階で早期に退院できるようアプローチしている。	○	管理者を通して、入院時の情報交換をしており、職員は、その情報を元に利用者の方が安心して過ごせる様、管理者との連携をさらに速やかに取れるようにして行きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとに、家族や医師との話し合いを行い、常に最新の方法での対応を行っている。	○	家族やキーパーソンとの連絡が取り難い利用者についても、施設からの連絡をまめに行い、注意を向けてもらう。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	定期的に、利用者一人ひとりに対する介護支援方法を見直し、医師の見解・指示を元に、利用者の状態に見合った対応ができるようにしている。	○	現段階に於いては、終末期介護に対応してはいないが、今後の介護に合わせた適切な対応ができる様、家族・利用者の意向に見合った介護に努める。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の居所へ移る場合、利用者には負担がかからないよう、日常生活・出来事等、細かく記録に残し、引継げるようにしている。	○	別の居所へ移られた利用者に対して、馴染みの職員が訪問に行く等、リロケーションダメージの軽減に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に、職員間での介護支援方法の見直しを行い、利用者に対して、最善の対応ができるようにしている。	○ カンファレンスやミーティングにおいて、個人情報等の取り扱い方の徹底をしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	他の利用者との交流を促し、会話が弾むよう職員が支援を行っている。	○ 利用者、一人ひとりのアセスメントを行い、その人に合った生活介護・支援を提供できるよう、職員の意識を向上させる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等基本的な流れはあるが、利用者個人のリズムに合わせた支援・対応を心掛けている。	○ 外出や買い物等、施設外での活動についても、柔軟に対応を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服の選択は、基本的に本人の希望で行っており、職員は、見守りや支援が必要な時に手伝う様にしている。	○ 散髪に出掛ける回数を増やし、本人が満足できる髪型を維持できるように努める。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と育てた畑の野菜を食材に取り入れ、献立にも利用者の希望するものに沿ったもので、できるようにしている。	○ 外食に出掛ける機会を増やし、利用者がもっと食事を楽めるようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの、嗜好物を理解しており、本人の希望に応えられる様に支援している。	○ 現在、提供していない嗜好品(酒類)についても、今後、提供できるような環境を作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの一日の排泄パターンの把握に努め、尿意のない利用者にも、尿取りパットを使用し、時間を見計らって声かけし、トイレで排泄できるように支援している。	○	パット使用の利用者も、排泄チェックシートを記入することで、その人の排泄パターンを把握。また、トイレの声かけをすることで、トイレでの排尿できるように取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めるのではなく、利用者の希望を確認し、入って頂いている。	○	夜間入浴希望の利用者に、夜間入浴して頂けるよう、職員のローテーションの工夫に取り組みたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、なるべく日中の活動を促し、生活の流れが整うよう、また、一人ひとりのその日の体調・気分により、気兼ねなく休息が取れるように支援している。	○	夜間、安眠できない利用者の原因を見極められるように、利用者の真意が聞けるような時間を持つよう取り組むたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の色々な場面で、一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	企画行事など、職員本位に実施するのではなく、利用者がそれぞれ何をしたいのかを把握するように努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、事務所で預かりしているおこづかい以外に、自分でも手元に持っておられ、買い物などの時に、自分自身で支払いをされる。	○	買い物など、自分で実際にお金を使える機会を多くして行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の体調・希望に応じて、心身の活性につながるよう、日常的に散歩・買い物・外食などに出掛けている。	○	「みんな一緒」という企画ではなく、職員・利用者、一対一(少人数)の外出が出来る様に計画したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者より希望が出た時は、実現に向けて、職員間で話し合い、場合によっては、家族の協力を得ながら支援している。	○	「行けない」とあきらめている利用者が「行ってみたい」と思えるような雰囲気作りをしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。	○	利用者が、積極的に外部の人達とコミュニケーションが取りたいと思うような働きかけをしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、都合のいい時間帯に、気軽にいつでも訪ねて頂けるような、雰囲気作りを心掛けている。	○	きっかけ作りとして、馴染みの人たちが参加できる企画行事を実施したい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の共有意識の基に、身体拘束のないケアを実施している。	○	現在、介護保険指定基準において、禁止とされる行為はなされていませんが、常に身体拘束を行わないケアを考え取り組み続けていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声かけしたり、一緒について行くなど、安全面に配慮して、自由な暮らしを支えるよう支援している。	○	夏場には、早朝の空気が爽やかで気持ちいいので、9時以前に外気浴が出来る様に環境を整えたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で作業を行いながら、全員の状況を把握するように努めている。夜間の休息は、居室が見渡せるホールのソファで休むなど、利用者の安全に配慮している。	○	更なる目配り・心配りを実行して、利用者の安全に配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、保管管理が必要な物は危険のないよう保管している。	○	利用者それぞれの危険要因の把握に努め、解決策をしっかり職員間で話し合いたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント・アクシデントが起きた際は、速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策について検討し、職員の共有意識を図っている。	○	インシデント・アクシデントの分析を行い、さらに、再発防止の対策検討に取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署などの協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施したり、まだ習得していない職員に対して、研修の日程の呼びかけをし、職員全てが緊急時に備え対応できるようにと、取り組みを行っています。夜間時には、対応マニュアルを整備し周知徹底を図っています。	○	訓練を受けていても、いざという時には不安なので、訓練を受けるだけではなく、自信が持てる様な取り組みをして行きたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・火災受診機の操作手順・消火器の位置・使い方などの訓練を行っています。	○	地域の方の参加・協力を得ながらの働きかけを増やし、いざという時の為に慌てず、さらに確実に避難誘導が出来る様に取り組んでいきたいです。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月、手紙を通してその月の体調・様子等を伝え、面会に見えた時には詳しく説明し、常に、ご家族様とコミュニケーションを計り、利用者様の現在の状態・状況の把握をして頂いたり、信頼関係を築ける様努めています。	○	これからも、状況変化に応じて、繰り返し対応策等を話し合ったり見直していきたいです。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、常に体調の変化に気付ける様、職員全体で努めています。また、普段の状態をよく把握し、体調の変化が見られた時には、より詳しく記録をつける様にしています。早期発見に取り組み、些細な事も見逃さない様、努めています。	○	利用者の方におこった些細な事でも、直ぐに管理者へ報告すると共に指示を頂き、迅速かつ確実に対応できる様、これからも取り組んで行きたいと思います。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、本人に手渡し、確実に服用できたか確認をさせて頂いています。利用者の方の体調の変化がみられた時には、詳細記録を取り、早めに病院受診をしています。	○	今後も職員全体で、薬の目的や副作用について理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認等に努めていきたいと思います。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、薬に頼らず自然排便ができる様努め、また、運動(ラジオ体操・リハビリ体操)などへの参加を促し、より便秘予防に努めています。	○	できるだけ自然排便ができる様、食事・運動などの工夫や働きかけに取り組んでいきたいです。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きへの声かけを行い、必要に応じて介助をしたり、見守ったりしています。就寝前には義歯洗浄を行っています。	○	自立支援を促しながら、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合った食事形態・量を考え提供している。また、個人個人で摂取量が少なかったり、体調状態が低下している利用者様には、詳細な記録をつける様になっている。毎日の献立では、栄養バランスを考えながら立てています。	○	季節やその日の室温等に合わせ、また、一人ひとりの状態や力・習慣に応じた支援をこれからもして行きたいです。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいへの呼びかけをし、予防・対策に努めている。利用者の方及びご家族様の同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。床・ソファ・手すり等、毎日の掃除時に除菌し、清潔を保ち予防に取り組んでいます。	○	常に清潔に保ち、予防に努め、これからも感染症に対する予防や対応等学び、職員全体で知識を深めたいです。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等、定期的に漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も清潔を保つよう心掛け、常に点検し掃除を行っている。毎日、食材を配達して頂き、買いだめをしない様になっています。	○	今後も、新鮮で安全な食材の提供ができる様に、衛生管理をしっかり行って行きたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチや花など置いてあり、アットホームな雰囲気になっており、明るい感じになっています。	○	花など増やし、玄関周りも気軽に立ち寄れる様な雰囲気に、さらに近づける様な工夫がしたいです。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや全体の雰囲気作りなど、利用者の方と一緒に考え、一緒に作り、その時の季節感を味わえる雰囲気作りに取り組んでいます。	○	居室入り口などに、カーテンで目隠しを作ったりと、居室内のプライバシーをもっと守れる様な空間にできたらと思います。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと掘こたつ、ソファがフロアにはあり、利用者の方それぞれ好きな場所で過ごせ、外にはベンチがあり、外気浴をしながら、他の利用者様と談笑できるスペースがあります。	○	共有空間では、一人になれるスペースは限られている為、なかなか一人で過ごせない為、間仕切りなどで個室空間が出来ればと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様、個人個人好みの物や、家庭で使用していた馴染みの物を、利用者様の生活スタイルに合わせて持ち込め、安心して過ごして頂ける様になっています。	○	いつでも使い慣れた物や使用したい物を持ち込み、その時の利用者様の状態に合わせての空間作りをして行きたいです。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になるにおいが出る場所、トイレ・汚物室には、消臭剤を置いたり換気扇などで悪臭が出ない様工夫しています。朝の掃除時には、フローアや全室、可能な限り換気をし、温度など利用者様の様子を見て調節するようにしています。	○	今後も悪臭防止に努め、工夫し、少しでも気持ち良く過ごせる配慮をして行きたいです。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、手すりを設置するなど安全確保に努めています。	○	利用者の方一人ひとりに合わせ、今後共、さらに自立した生活が安全に送れる様に工夫し、支援して行きたいです。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の一人ひとりのADL状態を職員は把握し、何ができ、何を援助すれば良いか見極め、環境整備に努め、自立支援に努めています。	○	今後も、一人ひとりの思いを聞き、受け入れ、安心して過ごして頂ける様、工夫し話し合いながらより良い環境を作って行きたいです。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設内にある畑のスペースを利用し、利用者の方が日常的に楽しみながら活用、活動できる環境を作っています。夕涼みや外気浴ができる広いスペースもあり活用しています。	○	建物の周りが広く、広い運動場もあるのでうまく利用し、利用者の方が楽しんで頂ける企画を立て、活動して行きたいです。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お茶会を開催し、さらに地域の方にここの施設の事を知って頂こうと取り組んでいます。毎月の行事と各号館で企画（外食・買い物・お誕生日会）の企画行事に力を入れようと取り組んでいます。中学校の跡地という事もあり、施設の周りはとても広い敷地になっており、周りは山に囲まれ、落ち着いた雰囲気になっています。施設前には畑があり、毎年、土作りから収穫まで利用者の方と一緒にしています。